

恒例の京都「新年会」

毎年1月3日は、京都の宮本憲一先生のところに伺う。昼過ぎに名古屋を出るが、西に向かう新幹線は意外と空いている。この日も往きはゆったりと座れた。帰りは立ちっぱなしだったが。せっかく正月京都に行くのでだから、できるだけ京都駅から北に向けて歩くことにしている。ことしは暖かった。それでも名古屋より寒く感じた。

京都駅から四条の方に向かって歩き、東本願寺あたりから横道に入った。まっすぐ歩くと、写真の「文子(あやこ)天満宮」があった。「学問の神様」天満宮という名に惹かれ、境内に入ってみた。



狭い境内には、じっと手を合わせる人が何人かいた。「北野天満宮遙拝所」近くで、すこし休憩した。ここは菅原道真と乳母多治比文子を祀る。北野天満宮の前身と伝えられる。北野天満宮は学生たちと訪ねたことがある。あのゼミ旅行はしっかりと記憶に残る。



四条烏丸から阪急電車に乗り「松尾大社」まで行く。「嵐山」の手前だが、参拝客らで賑わっていた。いつも桂川の土手で、どてっと一服する。川の流れを見ただけで、なにか心が落ち着く感じだ。ここから「木津・泉大橋まで43km」と表示されていた。



松尾大橋から嵐山を望む。雲がかかる嵐山もなかなか風情がある。この橋はいつも車が渋滞している。2年前の何十年ぶりかの大雪では、凍りついた歩道であやうく滑って転びそうになった。



宮本先生ご自宅での「新年会」は、いまから40数年も前から参加している。大阪・堺のご自宅の頃からだ。大学院入学前からお世話になり、美味しいご馳走とお酒をいただいたこと、とりわけ「おばあちゃんの手料理」が忘れられない。今回、先生のご長男「茂樹シェフ」が懐かしのおばあちゃん料理を再現してくれた。懐かしい肉料理を堪能した。

この「新年会」で多くの人にお会いすることができた。今は亡き先生や先輩らの顔も思い浮かぶ。最近若い人の参加が目立つ。これも宮本先生ならではの幅のひろさだ。今回久しぶりに「後半」の司会をつとめた。先生ご指名の「司会役」により、わたしの視界も広がってきた。ここでも宮本先生ファミリーに感謝したい。

(2017年1月7日)